さえないことの、 取 り除いてくれる、息苦しくさせ

も

眠りにつけない、

呪っ

た、

事実を、

わず

かの

微

風

うっていた,

いらいらしながら、

少数の人は、

大部分は

その1

1,

00人の人々の、

寝返りを

「イン ザ ヒート オブ ザ ナイト」

ルズの、 第 章 沈潜していた、活気なく、暑気とよどみで。 10分前に, ယ 時 O朝 0 町 ウェ

In the Heat of the Night

CHAPTER 1

AT TEN MINUTES TO THREE in the morning, the city of Wells lay inert, hot and stagnant. Most of its eleven thousand people tossed restlessly; the few who couldn't sleep at all damned the fact that there was no breeze to lift the stifling effect る 0 だし た。 る 力 く生き残っている イと交わっている, タンドに。 薬局 効 夜間 満 力 街 夜の。 灯 たしていた, 0 のいく 街 動 工 夜 停車していた、 角にある, 通 ル い O_{\circ} い影を、 ズ りの向こう側に、 7 い 町 映 か 熱 警察署がパト 直角に、 た 気 0) 重苦しく, 画 館, が、 裸 町 戸をおろした店や, 電 間断なく, を通り抜けているハイウ 縁石に沿って。サム・ウッ 球 力 自動空調 けのないガソリン・ が ライナ特有 商業地区 間 口 台のパトロ 静けさをふるわ を。 ールをさせてい 機が、 X は ようや サイモ 無 映 か ル 工 月 9

of the night. The heat of the Carolinas in August hung thick and heavy in the air. The moon was gone. A few unshaded street lamps in the main business area pushed hard shadows against the closed stores, the surviving movie theater, and the silent gas stations. At the corner where the through highway crossed at right angles, the automatic air-conditioner in the Simon Pharmacy was on, its steady throb purring against the silence of the night. Across the street the one patrol car that the Wells police department kept out all night was pulled up against the

F は、 そ 0) 運転手の、にぎって、ボール・ペンを、しっ

乗せかけていた,署のクリップボードを,ハンドルに, か り, 頑丈な指で、 記入していた、 報告書に。 彼は

そし 記 入していた、 几帳 面な活字体で、

な 明 か りを た よ りに、 窓 からの、 車 O_{\circ} 慎 重 一に書 き

れ 彼 は 異常なく終了したこと、 も れ なく巡察

主だった住宅 地 域 町 0, 指

ひつ る 通 りに、 そして、 彼自 身 が 確 認 た ま 7 たく

ることに、自分の 状 が な か たと。 判 断を。それは彼に再び意識させた、 彼は誇らしく思った、 書き留る 8

異

過

法三年間そうであったように、まさにこの時間 示されて に、 curb. Sam Wood, the driver, held his ball-point pen firmly in his solid fingers as he filled out his report sheet. He braced the official clipboard against the wheel and printed neat block letters which he could see by means of the dim light that filtered into the car. Carefully he spelled out that he had completed a thorough check of the main residential section of the city, as was required, and that he had found it in good order. He took pride in setting down his decision. It made him again conscious, as it had for the past three years, that at this time of night he was

ヒー 小 夜 インで。だが、夜のこの暑さは、彼に,拒絶させた,コー 再 くく 物 休止してコーヒーを飲む時間である、ドライブ・ び た、 Oで を飲むのを。 時計を。三時になるところだった、時間である、 あ クリップボードを、シー 彼 る が 目 覚めていて任務を果たしている主要な 町 じゅうで。終えて、 何 か冷たい Ł のがいい。 記入を, 横 O休憩をと 彼 見た。 は置

the most important man awake and on duty in the entire city. He completed his entry, put the clipboard on the seat beside him, and glanced again at his watch. It was almost three, time for a break and a cup of coffee at the drive-in. But the thick heat of the night made him reject the idea of coffee; something cold would be better. Should he take his break now or take a pass first through shantyville, the poor side of town? That was the only part of his job he actively disliked, but it had to be done. Reminding himself

きりと嫌うことだ。

かし、やらない

わ

け

に

は

最もきらいなことであった,

彼

の仕事で、

か

れ

が

は

る

0)

が

くく

い

か、

しつ

ま、

それとも、

通

り

抜け

る

のが

いく

か、

先

貧民街を、

町

の貧民地域

の ?

そ

れ

か な くく 返して、再び、 彼の 任務 O_{\circ}

彼 は 決め 休憩を遅らせることに。 彼 は 動 か

た、 車 進め 舗道へリから、プ 口 0) 滑らか さ

で、 優れたドライバーの。 彼は横切った、 ハイウ 工

イを、 車 が走っていな 両 方向を見ても。 ガ タ

が っているニグロ 地域 彼は 転

ガ

タと音を立てて入った、

デコボ

コ

の舗装路

思 出 再び, 夜のことを、 何か月か 前 O時

彼 が 轢 てしまった, 犬は眠っていたの だ、

道 0) ま ん中に、 サ 1 は 気 付 か な か それに、 間

に合うようには 避けて、 犬を、完全に。 サ L

は 広 again of the importance of his position, he decided to let the break wait for a bit. He slipped the car into gear and moved it away from the curb with the professional smoothness of an expert driver. He crossed the highway, deserted in both directions, and bumped onto the rough pavement of the sprawling Negro district. He drove very slowly, reminded again of the night, months before, when he had hit a dog. The animal had been sleeping in the street and Sam had not spotted it in time to miss it completely.

許 る 車 思 0) 思 道 0) 出していた、自分のことを、再び、 を求 を。 が け 持ち上げて、 め 彼 る な は いひどい痛 屡々 出掛 そして、 犬の頭を、 み、 けたけれども、 他人を当てにしている 彼は見た、 見入っている、 しゃがみこ 狩 死 猟 が

穴によって 目を道路 さを抱い 黒 恨 起 そ に 丰 Sam pictured himself again, squatting in the street, holding the animal's head and looking into its shocked, pained, trusting, beseeching eyes. Then he had seen death come, and although he frequently went hunting, and was generally rated a tough man, Sam had been torn by pity for the dog and chagrin that he had caused its death. Sam kept his eyes on the road, avoided the worst of the holes, and watched out for dogs. The short loop through the Negro district completed, Sam braked the car over the bumpy

般

にこ

は、

見られていたが、

気丈な男と、

サ

ムは

悔

なまれていた,

その犬にたいし、

悔

た、

彼がもたらし

た、

その死を。

サ

L

は

街

を通っている、

とお

り終わると、サムは、ブレ

こる、

目を

配った、犬に。

短

い環状道路を、

に

向

け、

避

け続け

最悪

0)

事

が故を、

を か けながら、 車に、でこぼこの踏み切りを渡り、

り道 古 かかった、ゆっくりと、守られている、 ほとんどペンキの あとも見えな 両 側 い羽 に、

板 張 り 0) 家屋で。 これ 貧 L 人 たち 0) 地

域 くく な で ある、 金が入る見込みがな 区域である、 人たちの い あるいは、 住 む 金を持 単 金

guarded on each side by old, ugly, largely unpainted

clapboard houses. This was a poor white neighborhood, a

place for those who had no money, no prospect of any, or

who just didn't care. Sam wove the car up the street,

concentrating on missing the holes in the road. Then he

looked up and saw, half a block ahead of him, a yellow

distorted rectangle of light framing a window of what

would be the Purdy house. A light at this hour could

にこ 7 悩 ま な い。 サ ムは縫うように進め 車

を、 そ 0) 道 集 中 見逃さないように、 穴を、

道 路 に あ る。 そして、 彼は目を上げた、見た、

光 ツ ク 0) 窓枠が見えた、パーディ家である。 ほど先に、 彼 0 黄 色い ゆがんでいる長 光 方形 が あ railroad crossing and began to roll slowly up a street

0)

口

0) は 0) 時 間 に、 意 味している る か ŧ れ な いく 腹

る 痛 れ 0) な が いることを、 ほ かの何ら かのことを、サムは ある いは、 意 味 嫌 くく (るか であ 也

を た 夜に、 そ 0) 種 しか の人を、 警察の警官であれば、 のぞき込むような、 職務中の 0 家の窓

そ れ は 事情がちがう。 彼 は 静かに寄せた、 車を、

要に、 歩 道 0) 静 縁 か に車を寄せた, 混乱させないように、 調べるために、 誰 かを、不必 注意深く

な ぜ 明 か りがついているのか, ノペ ーディ家の台所で、

分すぎに、 曲を 知っていることが。 朝 Oしか 彼自身は分かって そ 0) 台 所 は 照

 ω

時

15

ひつ

た

理

mean a bellyache, or it could mean a lot of other things. Sam despised the kind of man who would peer in windows at night, but to a police officer on duty it was a different matter. He slipped the car over toward the curb so as not to disturb anyone unnecessarily and slowed up enough to check carefully why the light was burning in the Purdy kitchen at three-fifteen in the morning, though he thought he knew. The kitchen was lighted by a single

らされていた, 個 の 100 ワッ 1 0) はだか電球

薄 下 が っている, くたびれたレ コードで、まん中から、その天井 1 0) カーテンが張 てあ O_{\circ} た

が、 グ ツ タリと、 くたびれ た感じで、 あ け 放 た れ た

窓 見え ないようにな つ てはいな か **つ** た、 中 0) 也

0)

明るい台所の。

そこには、

はっきりと見えた

彼 女が 背中を向けて、 デロ レス・パーディだった。

度見 かけ た のだ、 このことがあった、 過去 2・3 週

に、 彼 女 は 着 7 いく な か ナイトガウンを、 ま

間

外の、デロレスは取り上げた、小さな鍋を、ストー 1 口 ル 力 が 達 したときに、 箘 所 窓

0)

unshaded hundred-watt bulb hanging by its cord from the center of the ceiling. The thin, weary lace curtains which stretched, dead and motionless, across the open window did nothing to screen the view of the bright interior. There, plainly in view, her back turned, was Delores Purdy. As on the two previous times this had happened during the past few weeks, she wore no nightgown. Exactly as the patrol car reached a point opposite the window, Delores lifted a small pan off the stove, turned

から、 こちらを向いた、 そそいだ、 鍋 0) 中 身

テ 16 歳 0) 両胸と好まし カップに。 い曲線を、 サ ムは、 全部を見た 彼女の若さに満ち 彼女 0 た

大 腿部 O_{\circ} 何 か が、 デロレスの、 しかし、 不 快な

感 0) 裸 じ を抱 0) からだを、なにも興味を抱かせないと思った。 かせた、 彼に。 そして、見てさえ、 彼女

そ 0) 理 由 は、 彼は想像した、彼女がいつも貧しくて

裸 を洗っていない、 あるいは、そう思わせるからだ。

見 たときに、 サムは彼女がカップを口元へ運ぶのを、

わ 彼 かっ 0) た、 を。 誰 も病気ではないと、だから、反ら 瞬 彼は考えた、 警告しよう

彼

には

せ

た

around, and poured the pan's contents into a teacup. Sam had a full view of her sixteen-year-old breasts and the agreeable curve of her youthful thighs. Something about Delores, however, repelled him, and not even the sight of her naked body held any great interest. The reason, he guessed, was that she was always unwashed, or seemed to be. When Sam saw her raise the cup to her lips he knew that no one was ill his eyes away. For turned a moment he

れ 決めた,そうしないことを、というのは、ドアをノッ ないと, 家中 彼女が表から丸見えであると、しかし、 の子 この時間に、起こしてしまうかも 供たちを。 それに、

とだった,ドアのノックに,衣服を着けないままでは。 彼女は応答できそうにもな 明けた窓から入ってくる、 速度を上げた、 交差点で、そし 目に見える車 ハイウエ ほ かに 熱 也 0 contemplated warning her that she was on public view, but he decided against it because a knock at that hour might wake the whole houseful of kids. And what was more, she couldn't very well answer the door with no clothes on. Sam turned at the next corner and headed back toward the highway. Despite the lack of any visible traffic, Sam made a full stop at the intersection and then turned north. He let the car gain speed until the hot air that was forced in the open windows created

向

か

つ

北

彼

は 車

気でも感じられるように,

動

き

は

サ

ム

は完全に

停

車

1

の方

何

も

な

か

つ

たけれど、

サ

ムは、

まがった,

つぎの角を、

向

か

5

考えられることは、

ーされている, 片 側 に フォー は、 列に合板で囲まれたブー イカ (商標、テーブルなどの表面に塗る合成

界 作 \odot 分 間 線が見えてくる。 り 出すように、 彼は維持した、 幻想を, 彼 その速さを、所まで、 は車のアクセルから足を放 涼 風のような。 市 の境

越えて、境界線を、 入れた、車を、楽に、駐車場に、

晩中営業しているドライブ・インの。 彼は車 か

5 降 身軽に, 人の男としては、 身 体 0) サ

ズが大きい、 そして彼は押し込んでいった、そのレ

中 部屋の、 レストランは暑かった、中は、外より。 あった, U 字型のカウンター

大意力。レイから放境 the illusion of a breeze. Then for three minutes he held the pace until the city limits were in view. He lifted his foot off the gas, crossed the boundary line, and swung the car easily into the parking area of the all-night drive-in. He climbed out smoothly for a man of his size and pushed his way into the restaurant. It was hotter inside than out. The center of the room was filled by a U-shaped counter covered with worn Formica. Down one side a row of hard plywood

由 よそ役に立ちそうもないエアコン機が一 (仕切られた席) 「を持てそうにない感じだった。 窓 の — 台ついてい つで、 な自 お

0 て、 消 打 ち 出 えて L 7 ま い つ た、 た、 感じられ わ ず かな 流 なくなって, れ を、 冷 たい空気 数

チ (ほどで、 噴 気 孔 から、 冷気が出てくる。 木 0) 板

で、 過 去 そのペン 丰 は 黄 色 になってい 年 月

ば

り

0)

壁

は、

か

つて塗られ

7

くく

ただろうが、

いく

0) あ いく だに。 調 理 器 0 0) 壁 などが、 ま 7 黒 な 汚

.千人かの小さな注文の, 蒸 気 O現 れ てい 調 長 理され食べられ忘 年 言己 念物 とな

れ

油

0)

ζ,

何

色 booths promised no comfort and little privacy. In one window a totally inadequate air-conditioner pounded out a thin stream of cool air that vanished unfelt inches from the vent where it was born. The wood walls had been painted an off white at one time; the paint had yellowed with age. Above the grill the black stain of hot grease vapor made a permanent monument to thousands of short orders that had been cooked, eaten, and forgotten. The night counterman was a thin nineteen-year-old whose too

だ サ 顔 5 る 3 れ な も 去られ わず 九歳 いようだった、決めかたを、自分の意思の。 に な で 出 ムが入って行った、 は、 両 い 7 かに垂れ下がっていた。 機 腕 の若者であっ まだ、有った、にきびのあとが、下唇がい 械 が 向かって、 弓[に き かけられたような。 袖 伸ばされたように、 夜 0) の下に、 た、 カウンター 身ぶりであり、 男は 彼 うす汚れ のとても長 V字型に折れ 担 しじゅう唇をつき たシ なに 細 0) 反抗 男 か いく 両 T は 曲が 骨張 0) 0 ツ 腕 我慢 痩 は って、 時に せ 知

カウンターと交差して、乗せていた、

からだ全体を

long arms thrust below the cuffs of his soiled shirt as though they had been stretched by some infernal machine. His sharp, bony face still showed the signs of acne, his lower lip hung slightly open as though he were either accustomed to thrusting it out at people as a gesture of defiance or didn't know how to make up his mind. At the moment Sam entered, he was jackknifed across the counter, resting his weight on his elbows, and appeared completely occupied by

両 肘 引き込まれているようだった,完全に、 荒 Z

V 一面本に、 開 いて見ていた、 彼の前に。 現 わ

れ た 0) で、 警官が、 彼は素早く入れた、 読 んで

を、 物 を 備えた, カウンターの下に、 ぴんと伸ばした, 何十分か 0 時間に応ずる、彼が過ごす、 狭 いく 両

備 する警察官と, この眠っている街を。 彼 は、

手 を伸ば 厚手のコーヒーマグに、サムが座ると、

つに、三つの辛うじて使わ れ ているカウンター 0)

前 0) 掛 け O_{\bullet} 布 で被 わ れ ている椅 子 が 無 傷 0) ま ま

暑すぎる」 0) 状 サムが言った。 「コーヒーはいらない、ラルフ、今 「呉れ,コーラの大き は

the violent comic book he had open before him. In the presence of the law, he quickly slid his reading matter under the counter, squared his narrow shoulders, and prepared himself for the coming minutes he would spend with the guardian of the sleeping city. He reached for a thick coffee mug as Sam sank onto one of the three remaining counter stools whose upholstered tops were still intact. "No coffee, Ralph, it's too hot," Sam said. "Give me a king

定が 彼 チ は 5 瓶 いく 右 いく コ が勝 のを、 だ が た 腕 意見を言う前に。 分で一 割 栓を抜き、満たした、グラスに、コーラと泡を。 れ れ ったんだ、今晩のボクシングは?」 氷 0) カウンターの若者が答えた、すぐに。 代わりに」 たけど、とつ 泡が落ち着くと、サムは飲み干し、 0) 傷だらけのグラスに、半分ほど、かき氷を 杯にした、グラスを、飲み干し た かけらを、そして男にたずねた。 いの あたりを。 彼 たらしいよ, は脱いだ、 「良かっ・ たよ, 夜 制 勤 挑戦権は」 帽を、 の若者は、すく リッチが勝 嚙み砕 ブどつ リッ サム 判

Coke instead." He took off his uniform cap and drew his right arm across his forehead. The night man scooped a scratched glass half full of shaved ice, uncapped a bottle, and filled the glass up with liquid and foam. When the drink had settled down, Sam emptied the glass, chewed a sliver of ice into liquid, and then asked, "Who won the fight tonight?" "Ricci," the counterman answered immediately. "Split decision. But he still gets a shot at the title." Sam refilled his glass and drained it once more before he offered an opinion. "Good thing Ricci

らな 黒 少なくとも白人が挑戦権をとったんだからな」 は、 ウンターの男はうなずいた, て、 人のチャンピオンだ、今はね、 押 あまり好きじゃないが, 奴らはどうしてあんなに強いのか」 両手をカウンターに、ひろげた、 賛同 イタリア人は、しかし、 上の方の。 「六階級)

サムは、自分で、ケーキを取った・ 傾いて、曇っているプラスチッ それが見えるよう の手もあのように 分か は 彼 力 won. I don't go much for the Italians, but at least a white man gets a chance at the title." The counterman nodded in quick approval. "We got six black champs now, all the top divisions. I don't see how they can fight that good." He pressed his hands against the counter and spread his bony fingers in a futile attempt to make them look strong and powerful. He looked at the thick hands of the policeman and wondered if he would ever have hands like that. Sam helped himself to an orphan piece of cake that leaned under a clouded plastic cover

ば

た指を、

無

駄

な試

みをした,

なるだろうかと。

つだけ残っていた、

官

0)

頑

丈な手を、 考えた,

彼自身

に、

強

くて力のあるように。

彼は、

見ながら、

彼 か きりにうなずいていた。 が。 彼 な くないんだよ,リングに上がるのが」 本 宣言していると,締めの言葉を,このテーマについて。 ないんだ, は 0) 直 説 れ物に、 奴らは、 明し なぐられた時 実際のところ、奴らは勝ってきたし、 斧で、 ケーキの入れ物 動 カウンターの上 物と同じなんだよ。 俺たちとは、 違うんだ, 奴らをノックアウトするには。 目が告げていた、サムが お前やおれのようには のふたを。 奴らは、 ラルフは、 5 神経系統 ん殴るし

が

町

に

来ていた、

今晚。

連

れて来た、

娘

き。

でり。がし怖。し続しいいい。 on the counter. "They don't feel it when they get hit the way you or I would," he explained. "They haven't got the same nervous system. They're like animals; you've got to hit 'em with a poleax to knock 'em down, that's all. That's how they win fights, why they're not afraid to get in the ring." Ralph bobbed his head; his eyes said that Sam had pronounced the last word on the subject. He straightened the cake cover. "Mantoli was in town tonight. Brought his daughter with him. A real looker, I hear." "I thought he

それで、 だ、 た を 来 ないだろうと、 0) びしょびしょの ぼろ切れで。 予定していたよりも、完成するには、 りだした、カウンターをふきながら、 んな美人だと、 想像しているようだ、 来月にならなければ」 話じや」 主催者が 思っていた、 「金が か 返済するに 音楽堂を。 かるよう 使 若 者 い切 彼

るために来たってことだぜ」 「万事うまくいく 金をいくらまで ればなら は体 は wasn't due until after the first." The counterman leaned forward, rubbing the counter with a grayed and soggy rag. "It cost more than they figured it would to finish up the bowl. Now they figure if they're going to repay the grant in time, they're going to have to charge more for the tickets. I hear Mantoli came to town to help them figure out how much people would be willing to pay." Sam poured the last of the bottle of Coke into his glass. "I don't know," he commented. "This thing may go over all right, or it may

サ

ムは

コ

]

ク

0) 残

りをコップにあけた。

ことになるか

な

彼は言った。

な

場

料

マント

IJ

は、

料

一げられ

る

か、

相

談

に

0)

は

助

成

金

を

期

限

内

彼らは、

上げ

な け

も降 は お 連 そんなことはわ に た 1 か ここへやって来るとは思えんな。 れ 中 IJ も 目をやった。 クラシック音楽のことはなん は、 も音 ったらどうするんだ」 が 指 れ 一冬じゅう同じ音楽が聞 一楽はあ な んし、 揮をするというだけのことで大勢の人 にもこんな所 大失敗 かっているが、 ん ま まったくだ。 り好きじゃな に 終 わる 来て固い椅子に坐らなく コップを飲み干すと時計 そんな音楽の好きな か にこ いし、 ŧ も けるんだ。 どうなるんだか。 交響楽団だとか、 知らんが、 れ そんな高 ん。 間が お 雨

れ

な

0)

は

縁

が

ね え

が

ラルフが

同

調

した。

「でも、

級

turn out the flop of the century. I don't know anything about classical music, but I can't see crowds of people flocking here just to hear Mantoli lead a band. I know it's a symphony orchestra and all that, but the people who like that sort of thing can hear the same orchestra all winter long without having to come down here and sit on hard seats to do it. And what if it rains." He gulped the glass empty and glanced at his watch. "Yeah. What about that. I don't care about music neither, at least not that long-hair

で

連 中 が言うように、 観光客が来て金を落としていくような それがうまくいってこの町が 有

ことに 名になって、 なりゃ、ここだって修理してくれるだろうし、

み んな の生活も少しはよくなるかもし れねえな」 サ

 \mathcal{L} が立ち上がった。 「いくらだ?」

ケー

丰

は

お

ま

いけだ,

残

りもんだから。

お休み、

タ ウ ッ F サ ムは二十五セン 1 お いて外に出

た。 前に、 カウンター の男が 生意気にも言った.

み 彼 を つけを、不承 サムと。 知 サ ムが与えたのだった, それ は役立ったのだった。 冷たい 睨

ス

タ・ウッド」となったのだ、それである、

サ

ムが kind," Ralph agreed, "but I say if it can put us on the map like they say it can, and bring in tourists with money to spend, maybe they'll get this joint fixed up and we'll all live a little higher on the hog." Sam got up. "How much?" he asked. "Fifteen cents, the cake's on the house, it was the last piece. Have a nice night, Mr. Wood." Sam laid down a quarter and turned away. Once the counterman had dared to call him Sam. He had given a cold stare of disapproval and it had done the job. It was "Mr. Wood" now, and that

署 望 にこ ん 連絡 でいたことだ。 町 にこ 向 かう前に 彼 は 車にもどり、 ハイウエイを、 短 < 無線

線 で署 にこ 連 絡をし 7 お 彼 ば、 納 まっ 座 無 で

席 れ に、 は なる筈の, 気持ちになっ 最後の部分に, た 向 かう, こ の 単 夜 調 な O_{\circ} 仕事 外気は そ

熱 澱 んでいた, 変わ りなく、 車 のスピードを上げ

サ 7 いく L たが。 は呪う気持ちになった、 初めてだった、 押しつぶされる暑さに、 彼が勤務についてから、

告げている,焼けつくような熱さの日を,あとも続く。 れは意味している、もう一つの熱い夜だ、 暑 い 夜がくる、 更にその後に。 サ 明 L は

そ

was the way Sam wanted it. He climbed back into his car and reported briefly by radio before starting down the highway back into town. He settled in his seat, ready for the monotony that would make up the last part of the night. The air was thick again as the car gained speed. For the first time since he had come on duty, Sam allowed himself to damn the pressing heat that promised a scorching day to follow. And that meant another hot night tomorrow, and perhaps another one after that. Sam slowed the car as the

速度を下げた, 町 の中心街が見えてきたの で。

0) 夜もいつものように人影はなく、 か サ ムは

運 ゆっくり、小さな中心街では、 彼は思っ た、 再び、デロレス・パーディ 習慣にな

彼 女は結婚するだろう, 年若いうちに、

彼 は 確 信 した、どこか 0) 男がたくさんの楽しいこと

を、 セックスして楽しむだろう, 彼女と。 その時

0) を、 口 ツ ク先に、 彼 は 見た, 何 か が 横 た わ っている

がだんだん大きく見えてきた、サムはブレー 路 た。 光 サ 0 L 中 は アク 四 セ 個 ル を ヘッドライトの 踏 んだ、 車 は

ノペ

標

物

central area loomed ahead. The night was still deserted, but Sam drove slowly through the small downtown district as a matter of habit. He thought again of Delores Purdy. She would get married pretty young, he decided, and somebody would have plenty of fun rolling in the hay with her. It was then, a full block ahead, that he saw something lying in the road. Sam touched the gas pedal and the car spurted ahead. In the path of the four headlamps the object grew larger until Sam braked the car to a stop in the middle of the street

丰 動 男 前 灯 で **}** を、 を で 横 0) に、 きるように。 踏 周 前 そ わ 辺 ん の男を調べに、 いで降 で 7 を停 手 は (1 る, を り 人 間 かけ 8 と分 舗 何 た 道 も 車 彼はまず警戒の目を配った、 見え に。 か か ま ,5° る、 腰 ん な の拳銃に, 中 か 手 彼 足をは は 彼 点 道 は け、 伸ば 0 静 とっさに行 か かに佇 が 赤 数 み た いく 姿

脚横ム方ん行, む告勢 1 a few feet in front of what he could now see was a man sprawled on the pavement. He snapped the red warning lights on and swung quickly out of the car. Before he bent over the man, he first looked quickly about him, his hand on his holstered .38, ready for instant action. He saw nothing but the silent buildings and the hard pavement stretching out in both directions. Satisfied momentarily, Sam dropped down on one knee beside the man in the street. He was lying on his stomach, his arms above his head, his legs sprawled

た

わ

つ

7

くく

腹這

両

腕

を

頭

上

に

伸

ば

は

片

膝

を

くく

男

0)

そば

に、

道

路

 O_{\circ}

男

は

向

に

伸

びて

いく

る。

心

西己

は

な

いく

考

面

は、

サ

で

いく

る

建物

か

り

た舗

道

のほ

か

に

は

両

襟に、 ころ、 後ろを、そして、 妙 右 をひらいていた。 に。 0) 頬 頼 銀 を 頭 り 0) な 押 らげに、 握 O_{\circ} が異常に長く、 りの 付 けていた, ついたステッキが、 カールしていた、 彼 道路上に。 0) 顔 脇に, が向いていた、 それが覆っていた、 すりへったコンクリー 五・六フィート離れたと サ ムは差し込んだ 触れるあたりで、 転がっていた。 左に、だから、 首

apart, and his face turned to the left so that his right cheek was pressed against the heavily worn concrete. He had abnormally long hair, which covered the back of his neck and then curled where it brushed the collar of his coat. Beside him, five or six feet away, a silver-handled walking stick looked strangely helpless on the hard roadway. Sam slipped his left hand under the fallen man and tried to feel for a heartbeat. Despite the sweltering heat, the man was wearing a vest tightly buttoned; through it Sam could detect

左手

下に、

倒

れてい

る

男

0)

体

0

感じるか試

た、

心

臓

0)

鼓

動

を。

うだるような暑さにも

か

か

男は

着

7

いく

た、

チ

日

ッキを、

キチッとボ

をかけて。

チ

日

ツ

キを通して、サムは感じた、

拠 は な 男が 生きているという。 そ 0)

は る人体について。 思 読んでいたことを、 サムは、受けていた訳ではなかっ 見死体と見え

た、 何か特別なコースを、訓練の、 の仕 事 0) ために。

彼は要するに、 採用され名前が載 り, 給与支払い表

に、 説明を受けた、 まる一 日 新し い任務について、

のまま仕事についた。 かし、 指示されたよう

そ

2 • 3 に、 彼は読んだ, 冊の教本を、 市 利 用 郡 口 州 能な, の法規集を、 小さな署の本部 読んでいた

が

吸収

思

V

出された,

物

にあった。

サ

ム

は記憶は良

かっ

た、

知

彼に、今も、必要な時 識 は に。 の建 彼 彼 no evidence that the man was alive. Then he remembered what he had read about apparently dead bodies. Sam had not had any special course of training for his job; he had simply been put on the payroll, had been briefed for a day on his new duties, and then had gone to work. But as instructed, he had studied the civic, county, and state codes and had read the two or three textbooks made available at the small headquarters building. Sam had a good memory and the information he had absorbed came back to him now in the moment of need.

想 定 てはならない, 0) 人間が死んでいると、

医 師 に よって宣告されるまでは。 そ の人は失神

7 る る も あ る 明

くく か くく は意 識 不

気 絶 してい か

よって。 人が,インシュリン・ショックを受けた、

に

に

陥

つ

7

くく

る

0)

か

も

L

れ

な

****,

ほ

か

0)

幾

つか

0)

理

由

間 違 えられ た例はよく有る、 死人と、ある例では、 息

をふきかえし た 例 もある, 持 ち込まれたあとに、 死

体 収 容 傷

を受けている, 所に。 生存 場 合でない が 不 け 可 能 れ であ ば る 体 たとえば が 非常 な 首 損 が

な いというような、 常 に想定すべきである、 は 生

腐 敗が 生じている, 度合いまで、 生 命 が

> Never assume that a person is dead until he has been so pronounced by a physician. He may have fainted, been stunned, or be unconscious for any of several other

> been mistaken for dead and in some cases have revived after having been taken to morgues. Unless a body has

> reasons. Persons suffering from insulin shock have often

been so mutilated as to make survival impossible, such as decapitation, always assume that the person is living

unless decomposition has taken place to the point where

存在しえない

サムは急いで、戻った、車に、取り上げた

無 線 電 話 のマイクロフォンを。 この時間 では、 拘

迅 5 な 速 かっ に、 明 確 に、すぐに、彼の呼びかけが返答され 使うことに、公式 な用語を、 話した,

ると。 「交わる角で、パイニイ通りとハイウェイ

0), おおよそで言ってます、 男が道路に倒れてお

が、ここ数 れており、 直ちに 数 は が る は life could not possibly exist.

な

<,

誰

かが近辺にいる、

通

行もなかった、ここ数

考えられる,

死んでいると考えられる。

Sam moved quickly back to his car and picked up the radio microphone. At this hour he did not bother to use official language, but spoke quickly and clearly as soon as his call had been acknowledged. "At the corner of Piney and the highway, approximately, man in the road, appears to be dead. No evidence of anyone else nearby, no traffic for several minutes. Send the doctor and the ambulance right away." As he paused,

言 分 間 い 終わってから、 に。 派遣してくれ、 サ ムは思案した、しばらくの 医師と救急車を、 直ちに」 間

使 7 いただろうかと、 適切な言葉を、この報告で。

Z れ は 新 い経験だった、 彼 0 そして、 彼は望ん

で 取り扱ったことを、適切に。 すぐに、

夜 彼を, 我に帰っ した。 「その場で待機

サ 7 1 お は 頭 れ。 を 働 識別できるものはある か せ 急いで。 か、 被害者を?」

まだな

うりで。 私は見たことがな か 思っている, この男を 知

0)

知

7

いる

限

7

くく

ると、

誰

だ

か

を。

彼

は

答えた。

彼 は 髪 の毛が 長 チ 日 ツ

を着ていて、ステッキを持っている。 小 柄 身

丰

長

五フィート五インチ程度だ」「そりゃ、マントリ

私 9 Sam wondered for an instant if he had used the proper language in reporting in. This was something new to him and he wanted to handle it properly. Then the voice of the night operator snapped him out of it. "Stand by. Any identification of the victim?" Sam thought quickly. "No, not yet," he replied. "I never saw this man before to my knowledge. However, I think I know who he is. He has long hair, wears a vest, carries a cane. A small man, not over five feet five." "That's

交換手が 叫 指揮者だ。

とすると、たいへんなことになるぞ。 こんどの音楽祭の。 万一それが彼で、 くり返す、そ 死んでいる

の場で待機せよ」 サムは戻した、マイクを受け台に、

行 た、 急ぎ足で、戻って、 倒 れている男のところ

ずか九ブロックの

距離

か

ないので、

病院

ま では、 救急車が来るだろう、 五分もたたないうち

に。 度、 彼は思 時 サ ムは かがみ込んだ、 男の上に、もう

れ は限 くく 乗せた, 出した, りなく重大なことだ。 たいへん穏やかに、 轢いてしまった犬のことを、 後頭部に、 サムは伸

かし、

ば

Mantoli," the operator exclaimed. "The conductor. The man in charge of the festival. If that's him, and if he's dead, this could be one awful mess. Repeat, stand by." Sam pressed the mike onto its clip and walked quickly back to the fallen man. It was only nine blocks to the hospital and the ambulance would be on the scene within five minutes. As Sam bent over the man once more, he remembered the rundown dog, but this was infinitely worse. Sam reached out his hand and laid it very gently on the back of the

2.3 少し とが た、 サ そのような考えを思っているときに、 男 1 0) 分間だけ、その間は、 は 横になっていれば 出 頭 一来ると、 み 気が付いた、 7 まるで彼が触ることで、 くく る 救 助 が 彼 何 か すぐ来ると、 0) 指 彼は一人ではないのだと。 0) 荒 あ べったりしネバネバし いだに。 い舗装の上に、 だからこの 確か 彼の気持ちで、 め伝えるこ 速 男は あと 無

man's head, as though by his touch he could comfort him and tell him that help was coming quickly, that he would only have to lie on the harsh pavement for two or three minutes more, and that in the meantime he was not alone. It was while these thoughts were running through his mind that Sam became aware that something thick and sticky was oozing against his fingers. With a quick involuntary motion he jerked his hand away. The pity he had felt evaporated and a growing red anger surged up in its place.

ちが、

今まで感じていた、

徐

々になくな

り、

烈

識

0)

動

作

彼は

手をひっこめ

哀

れみ

0)

気

怒

りの気持ちが燃え上がってきた、代わりに